

☆卒業研究・ゼミナール発表を終えて

映像・音響デザイン学科 1年 大石 萌絵

私たちは、ゼミナールの授業でSBSメディアビジョン様と連携をし、CM制作を行なってきました。

クライアント探しから、企画、撮影、編集までを行って行く中で、たくさんの壁にぶつかりました。一番大きかったのはメンバーがみんな音響コースで映像の知識がほとんどないことでした。しかし、講師の先生や、SBSメディアビジョン様に1から映像について教えていただき、映像編集についての技術も身につけ、現在、CMが完成に向かっていきます。

学園祭で行なった企業発表では社会で活躍する企業の皆様から、多くの意見やアドバイス、お褒めの言葉を頂戴し、とても良い刺激になりました。

まだ、CMは完成していませんが、私たちが1年生でこんなにも大きなプロジェクトに取り組むことができたことは、これからの就職活動や、学校生活で生きる経験となりました。

<福祉医療 卒業研究・ケアスタディ発表会>

2月23日(金)

○発表会御参加講師(順不同)

- ・金子 光司 様
(野宿者のための静岡パトロール ボランティアスタッフ)
- ・杉山 典行 様 (静岡県補助犬支援センター 東部地区相談員)
- ・松永 和子 様
(大道芸ワールドカップ実行委員会
ノーマライゼーション室 AD)
- ・武田 栄子 様 (同上)

○発表テーマと学生メンバー

(1)『内定先病院事前研修報告』

石橋 侑莉 (医療情報秘書科2年)

(2)『手作りおもちゃ ～乳幼児の遊びの重要性～』

大石 菜央、岡崎 愛佳、山本 璃奈 (子ども心理学科3年)

(3)『なぜ幼児期の運動は必要なのか』

石川 大雅、伊柳 知弥、小泉 元輝 (子ども心理学科3年)

(4)『自立支援介護の「運動」に焦点を当てて』～潜在能力を活かし意欲を引き出す関わり～

白鳥 叶恵 (介護福祉学科2年 ケアスタディ発表)

(5)『思いに寄り添うこと』～全盲のMさんとかかわって～

齋藤 大地 (総合福祉学科2年 ケアスタディ発表)

(6)『出会いは自由な社会のため』

～静岡パトへの参加を通して～

岩本 光司、勝呂 北斗、山口 和久、若月 竜次

(総合福祉学科3年 ボランティア活動報告)

(7)『子育てサロン』～地域で取り組む子育て～

岩本 光司、後藤 淳貴、勝呂 北斗、山口 和久、山梨 健介、若月 竜次

(総合福祉学科3年 ボランティア活動報告)

(8)『てのひら』～こどもたちが主人公となる居場所～

岩本 光司、後藤 淳貴、勝呂 北斗、山口 和久、山梨 健介、若月 竜次

(総合福祉学科3年 ボランティア活動報告)

(9)『補助犬の在り方』～補助犬と共に歩む道～

後藤 淳貴、山梨 健介

(総合福祉学科3年 ボランティア活動報告)

(10)『大道芸とノーマライゼーションの繋がり』

～All for you. It's my pleasure～

小川 菜南、志水 加依、林 玲奈、松下 玲未、村松 茜、山口 日向子、吉永 千恵

(総合福祉学科3年 ボランティア活動報告)

○ご出席頂いた来賓の方々からの講評 [一部抜粋]

<ホームレス支援>

先生方とともに長く活動に関わってもらっている。静岡でも、ホームレスを巡る状況は年々変化しているが、今後も未来を担う学生さんたちと一緒に活動をしていきたい。

<補助犬啓発活動>

地道な活動によって静岡でも徐々ではあるが補助犬への理解は広がっている。何よりも継続が一番なので、今後も活動にご支援願いたい。

<大道芸ワールドカップボランティアスタッフ活動>

静岡での一大イベントのボランティアなので、参加者も多いが、年代や経歴などの多様さもこの活動の特徴である。何よりも静岡の未来を担う若者や学生の参加を今後も期待している。

<発表会全体について>

本学の創設以来、毎年この会には参加させてもらっているが、その時々々の時勢を反映した報告が毎年続き、この年になって勉強をさせて頂いている思いである。今後も本学の伝統として発展して頂いてもらいたい。



☆仲間と取り組んだ地域活動

総合福祉学科3年 若月 竜次

私たちは、3年間の集大成、そして総合福祉学科の特徴として地域活動に力を入れてきました。3年次になってから長期間ボランティア活動などをし、各種の活動に参加する事で多くの事を学ぶことができました。

私たちは、今まで極普通に生活してきたこともあり、現在、自分たちが住んでいる地域に様々な問題を抱える人々がいるという地域の現状を全然把握できていませんでした。地域活動をとおして、ホームレスや生活困窮家庭など、身近な場所でこういった問題を抱える人々がいることを発見することができました。また、地域活動をとおした多くの人々との出会いは、これらの活動の目を向けるべきポイントをより理解することに繋がりました。

卒業研究・ケアスタディ発表会があることで、参加したクラスメイトとともにこれらの活動の内容や意義を一からまとめ、活動を知らない人々により深く伝えられるよう、長時間、有意義な議論をすることができました。これから、後輩が地域活動を継続していくためにも私たちが発信していく必要があることも痛感しました。

私たちが社会に入る前に貴重な機会をもらうことができ、この経験は就職先でもそれぞれの仕事に役に立つことだと思います。就職後も、様々な地域に目を向け、広い視野で仕事ができる専門職を目指して頑張っていきたいと考えています。

各種地域活動でお世話になった方々、ご指導頂きました先生方、本当にありがとうございました。



☆ケアスタディ発表会を通して得たもの

介護福祉学科2年 白鳥 叶恵

私たちは、「介護福祉士になる」という目的をもって、2年間基本的な知識から実習では応用的な知識・技術を学んできました。ケアスタディ発表会は、その学びの集大成でありました。1月には私たちの目指す『介護福祉士国家試験』があり、その勉強と同時に進めたため、発表会が本当に迎えられるかとても不安でしたが、多くの先生方に支えられ学生同士も力を合わせることで無事発表会を開催することができました。私はこのケアスタディ発表会を通して、これまでに身につけた知識や実習を振り返ることができ、さらに今後『どんな介護福祉士になりたいのか』『どんな介護をしたいのか』を明確にすることができたと思います。さらに将来、振り返ったとき、新たな発見や学びにつながればと思います。4月からは、ここで学んだことを自信に、それぞれのステージで頑張っていきたいと思っています。最後に、ご指導下さった先生方、実習先の利用者様、職員の皆さま、本当にありがとうございました。



☆子どもの食について大切なこと

子ども心理学科3年 尾崎 未来

私のグループは、「幼児期における食生活の重要性」について研究しました。食は毎日のことで当たり前となっていますが、当たり前だからこそ子ども時代からの小さな積み重ねが大切だということを感じました。現代の子育ての環境や社会背景について調べていき、6つの食や文部科学省・厚生労働省の食育の取り組みについて学ぶことが出来ました。バランス良く食べることはもちろん、決まった時間に食べたり、会話をしながら楽しんで食べたりすることも大切であるとわかりました。

また、調べる中で静岡市でも子ども食堂の活動があることを知り、ボランティアに伺いました。活動の地域によってやり方は様々で、出汁から作っている地域や子どもが好きな物をメインに作っている地域もあり、地域ごとの違いや活動している方々の思いを知り、卒業研究発表会で発表しました。

私達は4月から保育士として働きます。給食や家庭での食事の支援を通して、子どもが正しい食育を学べるよう働きかけていきたいと思えます。



☆内定先事前研修報告会を終えて

医療情報秘書科2年 石橋 侑莉

私は、吉田町にある“いしだ眼科”にて夏の病院実習終了後に内定をいただき、そのまま事前研修をさせていただいています。研修では、患者さんの問診をとり、お会計の登録やレジ打ちをしています。患者さんと接する機会が多く、初めはとても緊張しましたが、研修が始まって約半年が経った今、緊張よりも楽しいと感じられるようになりました。改めてこういった報告会の場で研修内容をまとめてみると、実習の時に比べかなり多くのことができるようになったという手応えも感じられ嬉しかったです。

気付けばもう卒業が目の前で、来月からは正社員として働くこととなります。研修の時とは違い、業務も増え、残業があったりと大変な生活になるとは思いますが、今自分にできることを一生懸命やっとうと思えます。

また、専門学校の卒業を機に、実習から学ばせていただいたことを一からまとめ直し、復習したいと思います。患者さんに安心してもらえるような医療事務員になれるよう努力します。

文化祭公開講座

「Producer “在学中に想像した未来” と “現在”」

教頭 有賀 浩

「我道祭」最終日の2月25日(日)、株式会社シースリーフィルムでプロデューサーとして活躍されている、本学メディアデザイン音響科の卒業生、山梨広暁さんをお招きして、公開講座を開催しました。

山梨様は、本学を卒業後、オンラインエディター、プロダクションマネージャーの仕事を経て、現在はプロデューサーとして、著名なタレントやスポーツ選手の海外ロケによる大手企業のテレビCM、Jリーグ各チームのプロモーション、ACジャパンのプロモーションなどを多数手がけられています。その作品は海外のアワードで受賞もされています。

広告主が求めるテレビCMについて、企画のスタートから完成までの流れと広告主、広告代理店、制作会社の関係について、プロデューサーの立場から具体的にお話し下さいました。

講演後には学生から積極的な質問も出て、電子情報だけでなく、福祉医療の学生にも、また教職員にとっても大変貴重な時間となりました。

斯様な記念講演が無事行えましたことを、理事長・校長先生に厚く御礼申し上げます。また、会場準備に奔走してくれた学生会の皆さん、本当にありがとうございました。



平成29年度学生研究論文優秀作品

(公益社団法人静岡県職業教育振興会主催)

👑 第1位受賞

「現代における保育者の在り方について」

子ども心理学科3年 山本 璃奈

現代社会で幼児を取り巻く社会的環境には、運動能力低下、子どもが自由に遊ぶ時間や機会の減少、肥満等の子どもの健康、核家族化、不登校、少子高齢化、虐待、貧困等の生活の問題、事故・事件等から子どもをどう守るかなど、問題が山積している。そこで、本論文では保育者の本来あるべき姿について改めて考えることで、現代的な課題の解決の糸口を見つけたいと思い、研究のテーマとして設定した。また、4月から保育士として働くことになる自らの職業観にも繋げていきたい。

私は、障害児入所施設で実習をした。その際に、保護者からの虐待で入所してくる子供が多くなってきているということ

教えていただいた。また、保育園や幼稚園でも保護者への対応や発達障害のある子どもへの支援も、保育者に求められている。このような時代において、保育者にはどのような資質・能力が求められているのか述べていく。変化の激しい時代において、保育者は子どもたちに生きる力を育むことを期待されている。そのためには、子どもの在り方に関する適切な知識や理解、人間関係、そして保育者自身の豊かな人間性が求められる。また、保育者にはこれまで以上に高い専門性も求められており、幼児を理解し、活動の場面に応じた指導を行う力や家庭との連携を十分に図りながら教育を展開する力などが必要となる。

ここまで述べたどの力も、保育者にとって身に付けるべき重要なものである。しかし、ひとりの保育者が全ての点において完璧にできるようになるのは難しい。そこで、得意分野を持った職員が集まることで、チームとして保育を行うことが重要になると考える。幼稚園・保育所・施設において、多様な資質・能力を持つ個性豊かな人材によって、構成される職員集団の連携・協同によって組織全体として充実した保育活動を展開するべきである。私が保育実習で出会った施設保育士は、「子どもが楽しめるよう子どもの目線に寄り添い、一緒になって楽しむことや子どもが豊かになるような生活環境を作るようにしている。」「子どもたちが生活をしていく中で必要な支援をするだけでなく、子どもの生活・情緒の安定を図ることも大切だ。」と保育観を教えてくださいました。このような職員がいることで、子どもの安全性、健康面、発達、食育といった、幼児期に必要な教育・養護が行われ、多角的に子どもの成長を促していくと私は考える。また、現代的な課題としていじめや不登校などの問題にも、スクールカウンセラーや園医など専門家との連携・協力が今後より一層必要になってくるのではないだろうか。画一的で理想的な保育者像を求めるのではなく、生涯にわたり保育者としての資質・能力の向上を図るという前提に立った上で、各自の得意分野作りや、専門家の協力を仰ぐことを積極的に行うことで、組織としての保育の質が上がっていく。

これまでの内容を踏まえて気づいたことを述べる。子どものより良い育ちのために大前提となるのは「子どもが好きであること」であり、さらに、変化の激しい社会で生きていく上で必要なことを様々な視点からとらえ、社会の変化と向き合いながら、子どもを教育・養護していくことであると学んだ。また、子どもや社会と向き合う際、他の職員と連携を図ることはもちろんのこと、地域や保護者との関わりも子どもの発達・情緒の発達において大切になるため、地域・保護者に寄り添いながら